

1-2-⑤ 舞鶴市の地域拠点と支援施策を知る <地域への行政施策と視点>

◆ 資産マネジメント推進課

日時：令和3年11月12日（金）午前11：00～

出席：舞鶴市総務部資産マネジメント推進課：岩田課長。 推進課建築係：佐野係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長。 計画同人：寺田、小林

○「舞鶴市公共施設再生基本計画(平成26年)と公民館などの現況について

- ・東公民館：まなびあむに移転、文庫山学園と統合済み。
- ・南公民館：耐震診断で補強不要と判断された。空調設備も改修済みである。
- ・西公民館：西総合会館に移転済み。
- ・郷土資料館：西総合会館に移転済み。同基本計画の記載状況は対応改善されつつある。

○東図書館、西図書館 現施設の維持について

- ・フロン2020年問題をかかえている。空調機の故障が発生すると交換部品が無く、故障した時点で、建物が使用不能となる可能性がある。
- ・空調設備の全面交換を行うと、東西図書館とも数億円単位の改修費が発生する。
(室外機、室内機、冷媒配管の交換、機器と配管交換に伴う壁・天井等隠蔽部分の改修)
- ・トイレや雨水漏水も問題とされており、改修維持にはかなりのコストが発生する。
- ・新中央図書館の開館準備期間は、資料の装備や職員体制の変更のため東西図書館がそれぞれ数ヶ月の休館をする必要があると想像される。

○東と西舞鶴駅前の新中央館候補とされる敷地について

- ・都市計画法上の要件、敷地状況成立経緯、まちづくり、図書館計画論、などの観点から今後、比較検討し適地評価をしてゆくことになるだろう。
- ・埋蔵文化財調査、浸水地震ハザード対応、地盤調査(ボーリング)、駐車場整備規模、接道条件など技術的対応の必要度・負担性の検討も必要だろう。

○図書館サービスの現況と全市サービスについて

- ・全市的に自家用車利用の割合が高い交通状況だが、高齢化で免許返納をする方が多くなり、交通弱者が増えしていくと予測される。公共交通や全市サービスに関する検討は必要だろう。

※舞鶴市は昼夜人口の変化は少ないが自衛隊や海上保安庁の学生、高専の学生など、人口に入るがあまり敷地外に出ない方もいる。(人口の4～5%) 貸出率の低さに影響しているか。
→サービス掘起こしも考えられる。

◆ 人権啓発・地域づくり室 地域づくり支援課

日時：令和3年11月12日（金）午後3：30～

出席：舞鶴市市民文化環境部地域づくり支援課：飯田課長
生涯学習支援係：佐藤係長、地域づくり支援課：亀井係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長
寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○地域拠点としての「公民館」の今後のあり方と利用のようす

- ・公民館は7つの中学校区に1か所づつ配置されていて、現状の場所が最適かはわからないが、公民館を拠点として地域づくりを進めていく方針である。
- ・南公民館：活動も利用も多い。古くは村役場であったので愛着がある利用者もいる。
- ・大浦会館：地区の人口減少が課題であり、昨年からゆめプロジェクトをスタートさせ空家の活用などによる新たな定住を呼び込む活動等を行っている。発電所ができてからは道も良くなり、農家レストランなど誘客施設もできている。
- ・城北中学校区：中学校と協働でフジバカマを植えてアサギマダラを呼ぶ活動等を行っている。

※「近隣住区理論」では、最小の地域コミュニティ規模を、近隣住区と呼び、一中学校区を人口1万人として該当させる。近隣分区は人口5000人小学校区。公共施設や行政サービスを配置させる時のユニット単位として都市地域計画は組み立てられる。

○「公民館図書室」(一部は図書館の分館)と図書館サービスポイントについて

- ・中分館、南分館、加佐分館とも資料は図書館と共に書誌化されておらず、独自の貸出に留まった運営となっている。
→将来的に、図書館のサービスポイントとして図書館資料の貸出予約・返却ができるか。
→公民館職員の兼務辞令が必要だが、体制見直しの可能性はある。
- ・城南会館はロビーに図書コーナーがあり、中学生が勉強に利用している。
- ・まなびあむは、スペースの拡張は現状の利用から見ていくととりづらい。
- ・あそびあむは、うみべのもり保育所の隣にあり、絵本との親和性も高いのではないか。
→今後、状況が変化してゆく中で、図書館サービスからみた地域拠点<分館>見直しの可能性は必要であり、ありうるのではないか。また、自動車図書館<BMサービス>が行われる場合、サービスポイントの研究で、現状の地域拠点の研究は必要になる。
- ・図書館アウトリーチサービス研究で、地域づくり支援課と今後も連携してゆきたい。

◆ 福祉企画課 ◆ 障害福祉課

日時：令和3年11月12日（金）午後4：00～

出席：舞鶴市福祉部福祉企画課：松本課長 舞鶴市福祉部障害福祉課：島田課長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長、計画同人：寺田、小林

○図書館の設備、サービスについて（計画同人より）

- ・新しく中央図書館を整備すると、バリアフリーラインや法律に合致した施設となる。その他に、対面朗読室や録音室、点字プリンター等を使える障がい者サービススペースを計画する。施設計画条件としてどのようなものが求められるのか、市民ボランティアグループにも聴きたい。（基本計画だけでなく設計でも聞き取りがある）
- ・東図書館・西図書館には対面朗読室があるが、現在は使用されていない。

※福祉企画課では、デイケアの状況を伺い、『舞鶴市介護サービスガイド 高齢者の保健・福祉サービス利用のてびき2021』をいただいたて、地域拠点としての「通所介護」拠点リストを把握できた。

○福祉系市民ボランティアの活動について

- ・ボランティアグループは、公民館のボランティア養成講座などから活動を始めている。障がい者向けグループの主な活動場所は、公民館か身体障害者福祉センター。
- ・障がい者向け活動として手話サークル、朗読、声のたよりの発行、点訳などがある。

※基本計画では、現代の図書館の通常の障がい者サービスや資料施設について触れることになる。設計段階では、設計条件の確認時点や素案を下敷きにした意見聴取が行われると考えられる。
担当課との協力連携を要する。

○ボランティアグループからの要望きとりについて

- ・図書館サービスや中央図書館への要望に関するアンケート等の協力をボランティアグループに、障害福祉課からも要請することは可能である。

○図書館での活動が想像される市民ボランティアグループの状況

グループ名	主な活動場所	活動内容
舞鶴手話サークル「つたの会」	身体障害者福祉センター	手話の学習と交流、聴覚障がい者問題を学ぶ
朗読ボランティア 木曜会	身体障害者福祉センター	声のたより「やまびこ」のテープとCDを発行
むつぼし会 ※休止状態	身体障害者福祉センター	点字啓発活動、点字翻訳活動、障がい者との交流
舞鶴要約筆記サークル「みみかき」	身体障害者福祉センター	小学校等の福祉教育、講演会要約筆記
朗読ボランティア こだま会	中総合会館、要請場所	福祉施設へ朗読訪問、「朗読入門講座」の実施

※出典：ボランティアまいづるPART8(令和3年3月)

※この他に、
点訳ボランティア
「てんてんの会」が
ボランティア養成
講座で活動中。

◆ 観光まちづくり室 観光振興課

日時：令和3年11月12日（金）午前9：00～

出席：舞鶴市産業振興部観光まちづくり室観光振興課：山内課長、森下係長
市民文化環境部文化スポーツ室図書館課：平野課長、計画同人：寺田、小林

○舞鶴市の観光来街者の行動について（新中央図書館の位置と、図書館の来街者支援の視点で）

- ・観光来街者は8～9割が、自動車で来街する。（東舞鶴駅、西舞鶴駅からが主でない。）
- ・大きな来街者向けの駐車場の位置が、彼らの拠点になる。
- ・「舞鶴港どれどれセンター」は駐車場が足りない状況にある。遊覧船就航の実証実験も始まり、今後は海沿いに新たに駐車場が必要ではないかと思っている。クルーズ船乗り場も整備された。
- ・天橋立周辺への観光は、宮津の宿は食事付きが多いため、西舞鶴のビジネスホテルを利用する方も多い。（西舞鶴駅周辺は、宿泊者や乗換乗者にとってはいわゆるの拠点）
- ・敦賀まで新幹線が開通すれば、新幹線から京丹後鉄道に乗り換えて天橋立（宮津）に移動する観光動態インバウンドの流れが予測される。
- ・東舞鶴は赤レンガ、西舞鶴はどれどれセンターといった「海沿い」が主な観光目的となっていて、海沿いから鉄道駅側に観光来街をどう流すかが課題でもある。
- ・城跡しかない田辺城単独での集客力は弱いため、城下町エリアでの観光振興策を行っていく予定。（田辺城下歴史散歩、寺町スタンプラリーなど）
- ・ビジネスホテルの稼働率は比較的良いが、6割が仕事利用で観光は1割程度である。
- ・神崎は電車で行けるビーチがあるので、車を持たない若者にも人気がある。
- ・神崎のホフマン窯は舞鶴文化教育財団が管理していて常時公開はしていない。申込みで見学対応している。

※図書館の地域資料コーナーでは、
舞鶴市の地勢や産業観光情報を
体系的に展示表現すること
になるだろう。

※また郷土資料館の学芸委員の
助けを得て、歴史資料の集積
とサテライト展示を、時に、
郷土資料館の企画展示を開催
することもイメージされる。

※深く舞鶴を知る情報センターの役割を担いたい。

○図書館にできる観光振興政策バックアップの可能性について

- ・話題性のある図書館ができれば集客につながるだろう。赤レンガカフェ+図書館など。
- ・図書館が地域学やマイクロツーリズム（市民が街を観光する）の起点となることに期待。
- ・図書館と田辺城資料館・郷土資料館が合体していれば、地域学、マイクロツーリズム、観光客のいずれも期待できると考える。
- ・現在の東西図書館のある場所は、来街者の動線上にない。舞鶴観光情報を得られる場所として整備されれば、可能性は広がるだろう。今後も情報を共有してゆきたい。

1-2-⑥ 市民グループから活動と意見を聴く

◆ ふしぎの国（人形劇、エプロンシアター）

日時：令和4年1月18日(火)午前10:30～

場所：舞鶴市立東図書館海洋資料室

出席：ふしぎの国：井本さん、石橋さん

舞鶴市立東図書館：竹之内館長

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○活動の内容

- ・東図書館のおはなし会で月一回、人形劇やエプロンシアターを行う。図書館のイベント「としょかんでおみせやさん」(紙のお金をつくり、子ども達が自分でつくったおもちゃを売り買ひする、など) や「おたのしみ会」の共催を行う。

○活動の歴史とひろがり

- ・活動歴34年：始めは自宅や公民館で活動、図書館が出来てから図書館で活動するようになった。
- ・図書館の講座や本を活用して人形づくりを行ってきた。著作権や演目の相談や、工作の参考になる本がすぐに探せたり、資料があり職員がいる図書館だからやってこれた活動である。
- ・現在の活動人数：3～4人
- ・当初は幼稚園や公民館で活動していたが、人数的に対応できなくなってきてている。
- ・主婦の集まりで続いてきた活動。若い人は仕事を持っている人が殆どで声をかけづらい。どう活動を置んでいくか考え中。

◆ おはなし玉手箱（ストーリーテーリング）

日時：令和4年1月18日(火)午前11:15～

場所：舞鶴市立東図書館海洋資料室

出席：おはなし玉手箱：杉浦さん、須崎さん、美矢さん

舞鶴市立東図書館：竹之内館長

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○活動の内容

- ・ストーリーテーリング(素話)、絵本の読み聞かせを行う。
- 定期的に東図書館・西図書館、大浦小学校(中休み)で活動。
- ・夏休み冬休み：学童で(中舞鶴小、八雲小、由良川小など)
- ・単発の依頼で：舞鶴支援学校行永分校、倉梯小、志楽幼稚園等。
- ・大人向けのお話し会：中総合公民館で講演。20～30人集まる。
- ・授業の依頼：東高校の保育科

○活動の歴史とひろがり

- ・活動歴23年：図書館のストーリーテーリング講座を受講し、講師の提案でグループをつくる活動を始めた。
- ・現在の活動人数：6人
- ・若い人が会に入ってくれない、活動が繋がらないことがなやみである。
- ・ボランティアの声掛けを小学校等にしても、あまり要望がない。逆に、たくさん要望があっても人数的に対応が難しく、自転車操業的なところもある。



竹之内館長とふしぎの国の皆さん

○今後の図書館への要望

- ・催しを行うときに、スペースが足りない。人形劇の舞台スペースと観客の間が狭いことがある。
- ・駐車スペースが足りない。おはなし会等講演があるときに、諦めて帰ったという利用者もいる。
- ・図書館で子どもが走り回ることに寛容でない方も多い。上手にスペースをとれないだろうか。
- ・高浜町の図書館のように資料を増やしてほしい。

○図書館の主要な機能として「集会・展示」があり、サービスとして「場の提供」「出会いの機会の提供」がある。図書館利用から派生する市民活動に場を提供し、市民活動の広がりや世代交代を、出会いの機会の創出によって支援することが求められる。



おはなし玉手箱の皆さん

○今後の図書館への要望

- ・講演会をやってほしい。以前は絵本作家などの講演、文学講座などもあった。
- 図書館で予算がつかなくなつたので、最近は講演会等ができていない。
- 他市では、図書館友の会などが会費で講演会を行っているような事例もあります。

○図書館の社会教育機能として「企画講座」がある。

「学習機会の提供」「作家・著作者や共感し学ぶ仲間との出会いの提供」「創作や発表の機会創出」がこれにつながる。図書館利用から派生する市民活動に場を提供し、出会いつながる機会を創出することも、地域社会を図書館が支援することである。

◆ おはなしキャラバンたんぽぽ（人形劇）

日時：令和4年1月18日（月）午後2：10～

場所：舞鶴市立西図書館歴史資料室

出席：おはなしキャラバンたんぽぽ：根津会長、大田さん、北さん
後藤さん、米田さん

舞鶴市立西図書館：西駄館長

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○活動の内容

- ・西図書館で年4回、人形劇を行う。ペーパーサート、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター等多数のレパートリーあり。
- ・小学校、幼稚園、保育所、学童、支援学校、介護施設、高齢者サロン、社会福祉協議会からの依頼などで公演を行う。
- ・東舞鶴高校で2時間の授業を依頼されたことも。（おはなし、人形づくり、上演の指導）
- ・毎週木曜午前に、図書館で人形作りや練習を行う。自宅で部分的につくり、図書館で仕上げる。

○活動の歴史とひろがり

- ・活動歴36年：「母と子の読書サークル」を母体に1985年に発足。
- ・平成27年に文部科学大臣表彰、同年30年記念誌発行。
- ・現在の活動人数：実働は10人程度。60人を超える卒業者がいて、若い人も入っているので活動を繋げていけると思う。
- ・最近は子育て講座からの依頼がなくなったので、新しい団体が活動しているのかもしれない。



西駄館長とおはなしキャラバンたんぽぽの皆さん

○今後の図書館への要望

- ・製作も練習も図書館がなければ活動ができない。
- ・出来上がった人形を図書館に預けている。材料や道具の置き場も課題。図書館の私物化と言われないか、という不安もある。
→図書館に創作室やボランティアロッカーを設置する事例は多数ある。（預かる荷物に限りはあるが）
- 人形を図書館所蔵として移管して、他の団体に貸出して使ってもらうなどの考え方もある。
- 他市では布の絵本をつくる団体が、図書館で貸し出す布のおもちゃや絵本の製作等の協力をしているという事例もある。

○市民の作品と学習活動営為を、舞鶴社会の公共財として共有して、次の世代に伝えてゆくことも、図書館の大きな社会的使命にちがいない。

◆ 読書会参加者のみなさん

日時：令和4年1月18日（月）午後1：00～

場所：舞鶴市立東図書館

出席：読書会参加者：越後さん、杉本さん

舞鶴市立東図書館：竹之内館長

寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○活動の内容

- ・東図書館主催で月1回開催。図書館がテーマを選んでいる。
- ・参加者のまとめ役の様な方（90代）がレジメをつくってくれる。
- ・芥川賞・直木賞の受賞作品や話題になった作品が選ばれていて、自分では選ばないものに出会う新鮮な機会となっている。
- ・感想の交換で、一人で読むのとは違う視点があるのが楽しい。作品に関連して、舞鶴の過去の出来事を聞けることがある。

○活動の歴史とひろがり

- ・活動歴30年：図書館がテーマを選び、お知らせしている。
- ・主に参加する会員：10人前後、当日飛び入り参加可能。
- ・参加者は高齢者が多い。若い人が参加しても単発で続かない。平日の午後にやっているからか。
- ・広報にイベントとして紹介されているが、声掛けの工夫をしたほうが良いように思う。これからも続していくしくみづくりが必要。

○今後の図書館への要望

- ・分館でも東西図書館の貸出カードを使えるようにしてほしい。
- ・他市の図書館は駅のそばにある。福知山市のように駅の近くに設置すれば、交通手段もあり、遠方からでも行きやすいし、高校生なども利用するのではないか。

○図書館は個人で学ぶことを支える。加えて、共に学ぶこと、地域で学び合うこと、知見を分かち合うこと、が図書館の大きな社会的使命であることを、あらためて確かめたい。 「ご高齢で、少人数の、消え入りそうという読書会」の方々のお話の中に、図書館が果たすべき社会的使命が示されている。機会と場の提供にすぎないとと思われる図書館の一営為は「共に生きる」社会情景を支えている。

◆ 視覚障害者支援ネット・チームまなざし
◆ 丹後視力障害者福祉センター(あい丹後)

日時：令和4年1月18日(火)午後3:00～

場所：舞鶴市立西図書館歴史資料室

出席：視覚障害者支援ネット・チームまなざし：神田理事長
丹後視力障害者福祉センター(あい丹後)：堤相談員
ガイドヘルパー：千原さん
舞鶴市立西図書館：西駄館長
寺田大塚小林計画同人：寺田、小林

○図書館とのかかわり

- ・西図書館で音声ガイド付きバリアフリー映画上映会(京都ライトハウス主催)を行ってからのかかわり。
- ・あい丹後は京都府北部全域を対象として活動している。点字図書・録音図書の製作を行っている。堤さんは舞鶴市在住。

○図書館の利用促進について思うこと

- ・東舞鶴、西舞鶴とともにしっかり図書館を配備してらっているが、交通至便でないことが利用の少ない原因であると思う。
- ・視覚障がい者としては、来館のサポートが少ないことも利用しづらい環境となっている。
- ・利用者が少ないので、アピールの問題もあると思う。月1回広報誌に図書館の案内が載るが、障がい者・健常者ともに行き渡っていない。新聞折り込みのみでポスティングがない。新聞をとっている人が少なくなっている。
- 広報は、社会福祉協議会に送付しているがラックに置いてあるだけの状態。地域包括支援センターには送っていない。

- ・ドラマ「ヤンキーくんと白杖ガール」のように音声が付いた電子図書媒体が多くあると良い。
- ・ボランティア団体は、身体障害者福祉センターと図書館で住み分けがあり、繋がりがうすい。
→障害福祉課と図書館が話し合って連携をとるよう考えていきたい。
- ・ガイドヘルパーの延長として、図書館で朗読ボランティアの要望があったこともある。対面読書の要望は、どこの図書館でもある。
- ・プレクストーク(音声再生機器)の利用者は舞鶴市に30名ほどおられるが、軽度障害の方には配布されない。(西図書館は3台所有)
- ・綾部市は社協のたよりがCDでつくられている。
- ・福知山市の図書館は音声資料を所蔵している。

○舞鶴市の福祉系雇用の場について

- ・他県の図書館にある福祉の喫茶室について質問
- ・ほのぼの屋(フランス料理)、ぽーればーれなど福祉系団体を母体とした障がい者が働く場がある。
- ・雇用を大切にしてほしい。

○今後の図書館や行政(舞鶴市)への要望

- ・図書館に喫茶室などもあると良いと思う。コーヒーを飲みながら読書などできれば、図書館に来るきっかけにもなるのではないか。
- ・東西図書館の統合はやめてほしい。
- ・文化面にもっと予算を割いてほしい。
- ・障がい者支援をもっと手厚くしてほしい。
- ・今後もヒアリングの機会をつくってほしい。

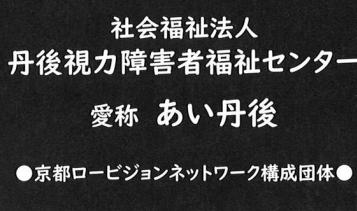
○図書館の障がい者サービス、支援団体との連携は図書館奉仕の一部門として確立させたい。

丹後視力障害者福祉センター(あい丹後)は、昭和50(1975)年の設立以来、半世紀にわたり京都ライトハウスとともに府内の視覚障害者の支援にあたっています。

主要な業務は、

- 点字図書館の運営
- 視覚障害者の相談支援
- ガイドヘルパーの派遣

です。
国、京都府、丹後地域の市町から運営の支援を受けて活動しています。



京都府北部の
「見えにくい」「見えない」
方のためのご案内

ご相談ください。

- 本が読みにくい
- まぶしくて見えにくい
- 歩きづらい
- 仕事を続けられない
- 学校で困っている
- 障害者手帳、障害年金等の手続きが難しい
- など

点字図書館
(無料)

点字図書・録音図書の製作・貸出を行っています。
電話でお申し込みください、無料で郵送します。
対象地域：全国
対象者：視覚障害者手帳所持者
(要登録)

相談・支援
(無料)

「見えにくい」「見えない」ことへの相談ができます。京都府の委託を受けた相談員が訪問で相談・支援をします。
対象地域：綾部市・福知山市以北
対象者：視覚障害者手帳の有無は問いません。
まずはお電話ください。

ガイドヘルパー派遣

*指定障害福祉サービス(同行援護)
事業所「丹後ガイドセンター」

視覚障害のお出かけを支援します。
対象地域：宮津市以北
対象者：市町村から「同行援護」の決定をうけた方。



相談・支援の対象地域は綾部市・福知山市以北です

1-2-⑦ 図書館協議会による利用分析と改善提言

□舞鶴市図書館協議会(第1期)

○2018年(平成30年) 8月 1日 第1回

①舞鶴市立図書館の概要について

②視察 舞鶴市立東図書館、中分館、西図書館

○2019年(平成31年) 1月11日 第2回

①第1回会議のまとめ ②舞鶴市立図書館の現状について

③幼児・児童サービスについて ④学校との連携について

⑤利用が少ない世代への対応について

⑥高齢世代、障害者などへの対応について

○2019年(令和元年) 5月20日 第3回

①第2回会議のまとめ

②課題解決型図書館・人が集まる図書館について(事例)

③総合計画、立地適正化計画と図書館について

④図書館の広域連携について

○2019年(令和元年) 8月19日 第4回

①第3回会議のまとめ

②図書館の選書基準、購入のあり方について

③老朽化する東・西図書館の将来的な方向性について

④図書館が地域で担う役割について

⑤地域にあった図書館サービスについて

○2019年(令和元年)11月11日 第5回

①第4回会議のまとめ

②第1期舞鶴市図書館協議会における意見書(案)について

○2020年(令和2年) 2月17日 第6回

①第5回会議のまとめ

②第1期舞鶴市図書館協議会における意見書の提出について

③第2期舞鶴市図書館協議会への引き継ぎ事項について

□舞鶴市図書館協議会(第2期)

○2020年(令和2年) 8月17日 第1回

①令和元年度の主要な事務事業

②第2期図書館協議会の運営計画について

③令和2年度事業計画について

○2020年(令和2年)10月15日 第2回

①令和元年度の決算・事業報告について

②資料収集方針・資料選定基準の改定案について

③コロナ時代の図書館について

○2021年(令和3年) 3月22日 第3回

①資料収集方針・資料選定基準の改定案について

②令和2年度事業報告について

③令和3年度事業計画(案)及び図書館協議会運営計画(案)

④アンケート結果について

○2021年(令和3年) 4月22日 第1回

・図書館基本方針(研究案)について

<非公開研究協議>

○2021年(令和3年) 7月28日 第2回

①舞鶴市立図書館基本計画の策定計画について

②令和2年度事業実績について

③令和3年度事業進捗状況について

□舞鶴市図書館協議会委員

	氏名	該当分野
会長	中川 幾郎	学識経験者
副会長	常世田 良	学識経験者
委員	池内 紀代子	家庭教育関係者
委員	大田 恵子	社会教育関係者
委員	川嶋 公貴	公募委員
委員	櫻井 雅子	公募委員
委員	秋原 栄人	学校教育関係者 任期:H30年4月～H31年3月
委員	宮川 啓三	学校教育関係者 補欠委員 任期:H31年4月～
委員	鈴木 俊治	学校教育関係者 補欠委員 任期:H31年4月～
委員	西村 説子	社会教育関係者
委員	松嶋 久美代	家庭教育関係者
委員	村川 広美	家庭教育関係者

□図書館協議会による政策研究と提言

舞鶴市図書館には、図書館長の諮問機関として「図書館協議会」が組織されて、政策研究と運営への提言がされてきました。2018(平成30)年から2021(令和3)年夏までは、11回に渡り研究協議が積み上げられて、この基本計画に研究のバトンが引き継がれています。

令和2年の中間には、今後の改善の方向性を示唆する、「意見書」が提示されました。また、これにもとづき市民アンケートが実施され、さらに研究を継続されています。

◆ 舞鶴市図書館協議会「令和2年意見書」

【意見書の位置付け】

今回の意見書は、現在、舞鶴市図書館の課題になっていることや、今は実行困難でも将来的には実行すべきと考えられることに焦点をあてて、図書館協議会委員の意見をまとめたものです。

一般的に新図書館建設等の際に作成される図書館基本計画のように、実行するサービスを網羅的に記載するものとは区別しています。また、将来の施設の在り方によって実行可能な範囲も異なってきます。

主な内容

1 今後の図書館のあり方について

● 図書館が地域の中で担う役割及び 地域にあったサービス

- ①情報提供サービス
- ②課題解決支援と図書館の本来の使命
- ③子どものための読書支援
- ④まちづくり・コミュニティの中心など新たな機能
- ⑤学校図書館等との連携
- ⑥市民との協働の場
- ⑦図書館事業評価(アンケート、社会調査など)

2 付議事項

① 老朽化する東・西図書館の将来的な方向性

>別紙1のとおり。(次ページに添付)

② 京都府北部連携都市圏での図書館連携の可能性

>京都府北部5市2町での広域貸出については実現し、圏域内の住民はどこの図書館でも貸出が可能になっているが、より利便性を向上させるため、今後とも圏域内の図書館と検討を重ねることが必要である。>人口が減り続けるなか、北部で一つの図書館として機能する考えは大切。それぞれの自治体の図書館が分館としての役割を担う。図書購入の重複を避け、高度な専門的な本は分担を決めて購入する。これには、貸出や返却本を圏域内で回遊させる物流が必要である。

③ 図書の選書基準・購入のあり方

>選書のあり方として、要求課題としてのポピュラーな本だけでなく、地域社会の必要課題に対応した幅広い分野の本の選書が必要。社会調査したうえで、地域や市民生活でどのような課題があるのか、司書が課題を把握して行われるべきである。

◆ 舞鶴市図書館協議会「令和2年意見書」より抜粋

老朽化する東・西図書館の将来的な方向性 [別紙1]

1. 施設の現状と課題

- ① 東・西図書館新築から約30年経過し、経年劣化により、修繕工事にも多額の費用がかかるようになっており、施設の将来的な方向性を検討すべき時期に来ている。
- ② その際、少子高齢化や、人口減少、厳しい財政状況、「公共施設再生基本計画」などにより公共施設の総延べ床面積の抑制、さらに、舞鶴版コンパクトシティなどについても十分勘査する必要がある。
- ③ 将來の方向性として大きく分けて、本館1館を新設する選択肢と、現在の東西図書館2館体制のまま改修を重ねていく選択肢がある。

2. 新・本館1館体制と現・東西2館体制の比較

1 1ページの比較表のとおり。

- ① 人件費などの運営コストは1館体制の方が安価になる。
- ② 新築工事費や改修工事費は、現状2館体制が安価ではあるが、いずれは建て替えが必要になる。
- ③ 利便性に関し図書資料については、1館体制の方が幅広い分野の、様々なレベルの図書資料を多く置くことができる。
- ④ 新たな図書館機能については、新築する方が、課題解決支援コーナーやまちづくりの拠点としての機能などを持った質の高い空間を持った図書館が可能になる。
- ⑤ 課題解決支援など専門的なレファレンスを行うには1館に情報をまとめて置く方が効率的で高度な対応が可能である。
- ⑥ 図書館までの距離は、1館体制であっても分館を置けば2館体制と同じである。
- ⑦ 新たに新築する方が、駅やバス停など公共交通にも配慮した舞鶴版コンパクトシティに基づいたまちづくりの拠点機能を持たせやすい。

3. 図書館施設の将来的な方向性

【主な意見】

- ① 今は東・西図書館が同じことをやっており、力が2分している。一つに集約して、そこから図書館情報を発信するとともに、地域課題や市民の生活上の課題に対応できるよう、行政と連携し、そのあたりの情報も発信してほしい。そのうえで、地域に密着した分館があればよい。
- ② 舞鶴市は東と西では性格が違う、歴史が違うということに捉われすぎて、東西のバランス重視で非効率になってきた面がある。しかし、これからはコンパクトシティの時代である。何を削って何に使うかが、重要なになってくる。そのなかで図書館はまちづくりや人づくりにも寄与できるので、投資してもらえる可能性がある。図書館の配置、あり方は地理的な問題だけでなく、そこに来てくださる方々のことを考えるのが大事だ。本館が非常に高度な機能を持っていることは当然で、地域館としての分館は、地域と密着した形であることが望ましい。
- ③ いろんな情報が入る図書館、地域の情報発信の中心になつてほしい。
- ④ 課題解決や専門的な本なども入れようとすると、大きな本館があつたほうがよい。子どももは遠い図書館までは行けない。身近な分館はあつたほうがよい。
- ⑤ 開架図書30万冊を超えるような大きな本館があればよい。本館は課題解決や、学校との連携など専門性を持った図書館にする。地域課題に対応するには地域性をもつた分館が必要である。
- ⑥ いろんな機能を持ち、いろんな人が集まる本館が交通の便利な場所に必要。子どもや高齢者には身近なところで本が手に取れるよう分館も必要である。
- ⑦ 大きな本館については、それを活用するだけのニーズといふか、若者や働き手、それが舞鶴で担保できるのか、それも大きな本館をつくることでそこを担保していくのか、そのあたりの検討も必要ではないか。
- ⑧ 市民が気軽に本に親しむという点では、これまでの東西2館と3分館を持つ体制でよかったが、設置後30年で制度や技術水準が大きく変化し、情報も高度化してきている。Society5.0など新時代に即した建物、蔵書とともに規模の大きい本館を設置したうえで、小規模でもよいので便利な立地に分館を持つのがよい。

- ⑨ 東・西図書館が1カ所に統合された場合、図書館まで遠距離になり、児童や高齢者の利用は減少すると思う。仮に本館1館にする場合でも、東西どちらかに分館を置くべきである。
- ⑩ 面積の広い自治体では分館が必要である。また本市の場合、本館や分館、公民館図書室の配置についても地理的に重なりすぎていたり、逆に周辺部では希薄になっていたりしており、システム全体の見直しが必要ではないか。一般的に移動時間20分前後までは市民が図書館に行きたいと思う距離。それを目安に魅力的な本館、分館を配置すれば、舞鶴の場合かなりの部分は人を呼べる範囲になると思う。
- ⑪ 現在の分館の規模は蔵書が7000冊から1万冊であり、一般的な分館と比較すると小さい。
- ⑫ 第1期目の協議会では、主に先進的な図書館や高いレベルの図書館についてのデータの分析を行ったが、人口や面積、財政状況などが同規模の自治体や同じようなレベルの図書館の状況も分析し、客観的にみていく必要がある。

【結論】

現在は、東・西図書館が同じことをやっており、力が2分している。将来的には、小説や趣味、娯楽が中心の、似たような内容の図書館を二つ持つではなく、より幅広い分野の図書を初心者向けから専門的なレベルまで収集し、幅広い市民層の需要に応えるとともに、地域課題や市民の日常生活上の課題解決支援などの、高度なレファレンス機能を持つ本館を一つ持つことが望ましい。そのうえで、子どもや高齢者が行きやすく身近であり、また地域課題の解決に寄与できる分館が必要である。

また、近年の図書館は、従来の情報提供機能に加え、まちづくりやコンパクトシティなどの中心施設として、あらゆる世代の市民が様々な目的で集う斬新で洗練された空間作りが行われている。将来的に本館を新設する場合は、舞鶴版コンパクトシティに基づいた、まちづくりの拠点となる位置に置くことも可能になる。

新・本館1館体制と現・東西2館体制の比較表

	新・本館1館体制	現・東西2館体制
運営コスト (人件費など)	安価。 1館がまとめて業務を行うことで、効率的である。	高価。 同じ業務を2重に行うことが多くなり、非効率である。
新築、改修工事費	高価。 建物を新築する必要がある。	安価。 今後老朽化に伴う高額な改修工事の費用が発生する。またいずれは建替えが必要。再生実施計画は第3期(R18-R27)。
利便性 ①図書資料	優。 幅広い分野の本や初歩的な本から専門的な本、様々なレベルの本を置くことができる。専門性に優れた本館と利用の多い小説などを中心とした分館に機能を分けることができる。	劣。 蔵書が2館に分散する。似たような内容や同じようなレベルの本を平等に置くことになり、多様性がなくなる。2館平等に人気小説や流行本が多くなり、結果的に専門書等が少なくなる。
利便性 ②新たな図書館機能(ハード面)	優。 新築することにより、課題解決支援コーナーや、まちづくりの拠点としての機能、地域の情報センターとしての機能などをもつた質の高い空間を持った図書館づくりが可能。	劣。 現在の施設は、手狭になっており、新たなコーナーや機能を付加することは困難である。
利便性 ③新たな図書館機能(ソフト面)	優。 課題解決支援や地域情報に関する幅広く、専門的なレファレンスを行うには1館に情報をまとめて置く方が効率的で高度な対応ができる。また1館で集中して行うことにより、職員のレファレンス能力の向上につながる。	劣。 専門性の高い複数のコーナーを2館に分散または並置することは、情報が分散することとも、内容・レベルが似た情報を東西平等に置くことになり、多様性が無くなる。
利便性 ④距離	等。 本館1館になると、距離は遠くなる市民が増加するが、図書館システムが連動した分館を設置すれば、現状を維持できる。	等。 2館ということで、身近で比較的行きやすい距離にある。現状の距離のまま、変更はない。
まちづくりの拠点	優。 駅やバス停の近くなど公共交通にも配慮するとともに、舞鶴版コンパクトシティに基づいたまちづくりの拠点となる位置に新設することも可能。	劣。 東西図書館とも市街化区域の端部にあり、まちづくりの拠点とするのは困難である。

◆ 舞鶴市図書館協議会「令和3年 研究案」

□ 舞鶴市図書館の現状と課題 1 図書館の現状

(1) 現在の運営方針

市民一人ひとりが、心豊かな人間形成といきがいのある充実した生活を求めて、自ら学習する意欲が高まってきているなかで、生涯学習のまちづくりが求められています。

図書館は、あらゆる分野の資料を収集して、誰でも自由に学習ができるよう援助する施設であり、生涯学習の基本的施設であるといえます。

日々の生活で生じる課題や問題を自らの力で解決するために、あるいは生活を楽しみ豊かな人生を送るためにと様々な目的をもつ市民に、資料を収集・整理・保存して、それらを提供することが図書館の最も重要な役割です。

こうした資料提供という図書館の基本的機能を達成するために、本市図書館においては以下を運営の基本方針としています。

①あらゆる市民の読書要求に応えることができるよう、図書資料の充実に努める。

②あらゆる市民の求める図書資料を自由に、気軽に、貸出にする。

③市民の身近な生涯学習施設となるよう、親しみのある図書館運営に努める。

(2) 施設

東西図書館とも建築後30年以上経過し、空調設備、照明設備等が故障を繰り返し、更新が必要な時期を迎えており、躯体は耐用年数内ですが、雨漏り等があり、老朽化が進んでいます。

3つの分館（南、中、加佐）は、それぞれ公民館施設内にあり、東西図書館のオンラインシステムに接続しておらず、図書の貸出・返却は、当該分館の資料に限定されています。

2 図書館の利用状況

2015年度（平成27年度）から令和元年度までの5年間の貸出冊数・貸出者数の推移は、東西図書館、3分館とも減少傾向が続いている。2018年度（平成30年度）の一人当たりの貸出し冊数は、4.01冊であり、京都市を除く京都府下14市のなかで、13位の状況にあります。

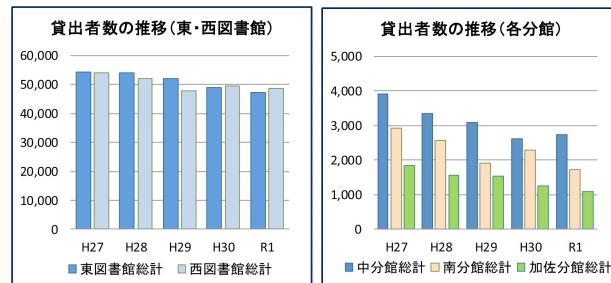
(1) 貸出冊数の推移

	H27	H28	H29	H30	R1
東図書館	193,718	190,757	186,623	175,533	168,243
西図書館	184,379	177,905	169,222	176,719	173,369
中分館	9,156	8,208	7,492	6,227	6,437
南分館	6,507	5,819	4,376	4,865	4,013
加佐分館	4,670	3,985	3,891	3,155	2,713
合計	398,430	386,674	371,604	366,499	354,775



(2) 貸出者数の推移

	東図書館	西図書館	中分館	南分館	加佐分館	合計
H27	54,272 (8,890)	54,086 (8,793)	3,904 (1,249)	2,925 (869)	1,834 (864)	117,021 (20,665)
H28	54,012 (9,189)	52,086 (8,969)	3,360 (1,138)	2,562 (818)	1,563 (691)	113,583 (20,805)
H29	51,958 (9,356)	47,886 (8,444)	3,090 (995)	1,914 (653)	1,527 (628)	106,375 (20,112)
H30	48,982 (8,461)	49,674 (8,898)	2,609 (776)	2,279 (655)	1,253 (493)	104,797 (19,283)
R1	47,320 (8,369)	48,735 (8,256)	2,741 (861)	1,731 (653)	1,092 (324)	101,619 (18,463)



(3) 図書館登録者数の推移

	登録者数				登録団体数
	総数	幼児・小学生	中学生	一般	
21年度	36,233	3,462	2,232	30,539	271
22年度	35,672	3,411	2,042	30,219	279
23年度	34,955	3,327	1,968	29,660	277
24年度	34,464	3,368	1,842	29,254	287
25年度	34,378	3,438	1,851	29,089	241
26年度	33,602	3,318	1,809	28,475	231
27年度	31,766	3,340	1,752	26,674	233
28年度	31,262	4,430	1,789	25,043	241
29年度	30,846	3,838	1,705	25,303	283
30年度	30,441	3,855	1,621	24,965	284
元年度	30,033	3,782	1,594	24,657	353

(注) 登録者数は、東西図書館共通（分館を除く）

3 利用者のニーズと課題

(1) 藏書構成と貸出状況

■蔵書の分類構成（一般書）

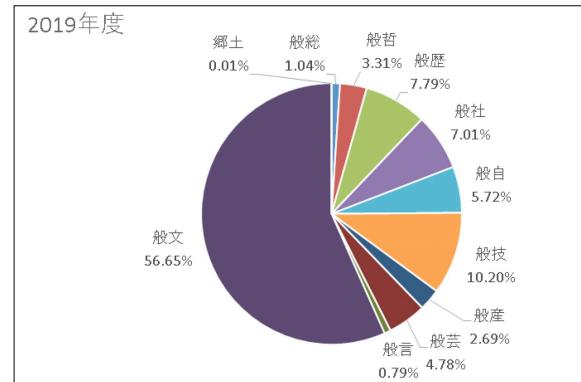
蔵書の分類構成は、文学が最も多く、約40%を占めています。この割合は、2009年（平成21年）からほぼ横ばいの状況です。

文学の比率は、京都府下の状況を見ても、35%から40%が平均的な数字となっています。

■分類別貸出状況

文学書の貸出割合は、2009年（平成21年）の51%から2019年（令和元年）には56%へ増加した半面、専門書や実用書の貸出割合が低下しています。

文学書の蔵書割合が、40%であるにもかかわらず、貸出冊数の割合が高い傾向となっており、2009年（平成21年）からの10年間で約5.5ポイント増加しています。



■年代別貸出冊数の推移

全体の貸出冊数は、平成27年（2015年）から減少傾向が続いており、この5年間で約43,600冊減少しています。

年代別貸出冊数の推移では、70歳以上の高齢者の利用が増加しています。本市では、高齢者人口の割合が増加していることから、その影響が大きな要素と考えられますが、高齢人口の増加を加味してもその傾向は顕著です。この年代は、新しい本が無くても、小説などの古い本も読み返すなどして利用されているものと推察します。

0歳から9歳の利用は、全体の貸出冊数の減少に関わらず、横這いで推移しています。この年代は、スタンダードな本を利用する傾向があり、古くても同じ本が繰り返し貸し出されています。

図書館利用者数の減少要因は、働き盛りの年代（20代から50代）の利用減であると言えます。

(2) 図書館アンケート

図書館の利用状況や市民ニーズを探り、現在の課題を確認するとともに、幅広い世代に利用いただける図書館への転換を進めていくための基礎資料とするためアンケートを実施しました。

◇実施期間 令和2年11月28日（土）～12月20日（日）

◇実施手法 ・Webサイト（ラン・メール配信、市HP）で回答依頼

・東西図書館で来館者にアンケート用紙配布・回収

◇回答者数 1,322人（Webサイト:464人 東西図書館:858人）

調査結果から、来館者の世代別構成では、10代・20代の若者が極めて少なく、また、来館者の多くは、小説や趣味のための図書を借りる事を目的とした高齢者世代、子どもの読み聞かせや子どもが読む本を借りる事を目的とした子育て世代が占めている状況です。

来館回数が少ない（過去3年間の来館数が数回以下）回答者の分析では、30代から50代の働き盛りの世代の割合が高く、現状は、この忙しい世代に必要とされる図書館ではないことが推察されます。

本指針で示す新たな方針に基づき取り組みについて、市民に周知を図ることが必要です。